

第84回

日比谷メーデー

荒川新聞



任長	任部	掃合部
責員	責伝	清組支
行委	宣	京働川
行集	育	東労荒
発執	編教	東労荒

2013年5月15日
第10号

メーデー 特集号

5月1日(水)、日比谷野外音楽堂にて、第84回日比谷メーデーが開催されました。当日は、各自の役割分担を行い、地連実行委員の仲間と準備を進めました。

式典が始まると、会場内に労働組合の仲間が結集し、働く者の団結で、生命と権利、平和と民主主義を守る闘いに決起しました。

東日本大震災から2年が過ぎ、今なお福島第一原発では、東電による事故が続く、収束とは程遠い状況で、被災者の困難な生活・労働者の被ばく労働が続いています。

安倍政権もまた、デフレ・円高不況から脱却するとして「アベノミクス」を強行しています。円安による大企業の利益誘導であり、中小企業の改善にはつながらず、賃金格差を拡大させ、その矛盾は、公務員労働者の賃下げ攻撃へと進んでいるのが実態です。

私たちは、企業利益優先の社会に反対し、労働条件全般の改善を、働く者の団結で闘いぬかなければなりません。

労働者の幅広い結集と一層の団結が求められています。

日比谷メーデーに参加して

私たち荒川支部は9名の仲間の日比谷メーデーに参加しました。支部ではもっと参加希望者がいたのですが、当日は連休の間の平日であったため休暇の取得が難しく、支部の仲間たちの協力で、なんとかこの人数で参加することができました。

【浦井英昭】
ました。今回も色んな職場の厳しい実態の報告・貧困・格差・原発問題などが舞台で発言されました。決して他人事ではなく、私たち働く労働者みんなの共通問題として考え、団結して解決しなくてはならないと強く思いました。



予報では悪い天気でしたが、朝から日が差して暑い位の陽気となりました。満員の日比谷野外音楽堂では、私たち清掃の仲間たちの参加人数の割合が多く、お揃いの青い帽子と作業服でとても目立っていて力強さを感じ

